

日本骨髄バンクの現状（平成 18 年 12 月末現在）

	11 月	12 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,460	2,651	269,614	339,902
患者登録者数	191	192	3,350	21,886
骨髄移植例数	86	65	-	7,966

20 歳未満のドナー登録者数

12 月 163 人

合計 4,602 人（17 年 3 月～）

51 歳以上のドナー登録者数

12 月新規 91 人

延長 214 人

合計 5,818 人（17 年 9 月～）

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 平成18年の年間ドナー登録者数、移植例数が過去最高に

平成18年のドナー登録者数は1年間で4万4308名となり、昨年の登録者数（3万9233名）を約5000名上回りました。登録者数は平成17年8月より大幅に伸びており、登録可能年齢の拡大や公共広告機構による骨髄バンク支援キャンペーンが効を奏してしているものと思われる。また非血縁者間の骨髄移植実施数も949件となり、昨年の915件を大きく越える結果となりました。このような結果を得られましたのも、ドナーの方々はもちろん、多くの支援ボランティアの皆様や日本赤十字社、各都道府県など関係機関の方々のご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

2 平成19年度移植対策関係予算当初内示

平成19年度の移植対策関係予算の当初内示が12月20日に行われました。予算の内示にあたり、厚生労働省健康局疾病対策課臓器移植対策室長より、「長期的展望に立った事業の企画、見直し等を進め、あっせんの迅速化、患者負担金の軽減をはじめとする各般の課題に取り組むこと」などの要望が出されました。骨髄移植対策については11億6700万円で、18年度の11億6300万円と比較すると400万円の微増となっています。しかしながら、骨髄移植推進財団の骨髄移植対策事業費は4億5740万円（18年度は4億8454万円）と2714万円減額されました。この中でコーディネーターの増員等が微増となり、学生用普及啓発資料作成費1811万円が新たに計上されました。日本赤十字社の骨髄データバンク登録費については、検査対象人員の増加を見込み、7億989万円（18年度は6億7803万円）と3186万円増額されました。

3 ドナー登録数30万人達成後の目標の考え方について

ドナー登録者数が平成19年度中に目標である30万人を達成する見込みとなっている状況を踏まえ、「将来展望に関する検討会議（以下、「検討会議」という。）」において、ドナー登録者が30万人を達成した後のドナープールのあり方について議論を重ねて参りました。

この検討会議での議論の過程で、ドナー登録数30万人達成後の目標については、広く関係者の方々のご意見をお聞きしたうえで答申を取り纏めることとなりました。今後皆様のご助力を仰ぐこととなりますが、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

4 患者さんからドナーの方への「メッセージカード」の導入

骨髄を提供したドナーの方と移植を受けた患者さんの間では、財団を介して移植後 1 年までに、それぞれ 2 回まで手紙交換をすることができます。骨髄を提供したドナーの方は患者さんとの唯一の接点ということで患者さんからの手紙が届くと大変喜ばれますが、現状では手紙が届くのは約半数です。これを受け、病床の患者さんが手紙を書きやすいよう、ドナーの最終同意確認後、財団から患者さん宛てに「メッセージカード」を送ることとしました。

「メッセージカード」は、カード 1 枚と封筒がセットになっており、ドナーの方へのメッセージを書いて財団に送付すると、ドナーを担当する地区事務局に転送され、ドナーの方の手元に届くようになっています。患者本人や家族の他、移植医師、移植スタッフからのメッセージも可能です。

5 「五研究班合同公開シンポジウム」「日本造血細胞移植学会総会」開催

1 月 28 日(日)「五研究班合同公開シンポジウム」(於：東京医科歯科大学湯島キャンパス特別講堂)が開催されます。『厚生労働科学研究 ヒトゲノム・再生医療等研究事業』五研究班の発表が行われ、骨髄バンクに関係されている多くの先生方の発表も予定されています。

2 月 16 日(金)、17 日(土)には「第 29 回日本造血細胞移植学会総会」(於：福岡国際会議場)が開かれます。特別プログラムとして行われるシンポジウムやセミナーではモーニングセミナーやランチセミナーも予定され、他にも一般演題としてワークショップや市民公開講座が行われます。財団では関係者を対象とした「骨髄バンクコーディネーターブラッシュアップ研修会」「骨髄バンク調整医師・認定施設連絡責任医師会議」を行います。またブースを設置しポスターの展示も行います。

問い合わせ先 / 「五研究班合同公開シンポジウム」：当財団まで、「日本造血細胞移植学会総会」：092-716-7116

6 国際協力の現状

1) 国際協力の現状

		2006.10～12				～2006.12末
海外ドナーから国内患者へ		登録患者数	全抗原適合*	コーディネイト数	移植数	累計移植数
NMDP(米国)	日本	7	5	7	1	108
BTCSCC(台湾)		7	2	5	1	25
KMDP(韓国)		7	5	4	0	11
計		—				144
国内ドナーから海外患者へ		登録患者数	全抗原適合*	コーディネイト数	提供数	累計提供数
日本	NMDP(米国)	15	10	23	1	10
	BTCSCC(台湾)	2	2	0	0	0
	KMDP(韓国)	58	43	39	2	124
	その他の国**	—	—	—	1	20
計		—				154

* 1 人でも適合したドナー候補者が見つかった患者の数。

** その他の国と地域は累計のみ掲載します。提供内訳は香港 6 件、英国 2 件、オランダ 1 件、オーストラリア 1 件、ブラジル 2 件、ドイツ 3 件、ベルギー 2 件、カナダ 1 件、シンガポール 1 件、フランス 1 件。

2) 骨髄バンクを介して 2 回提供された方(累計数) 331 人

3) DLI(ドナーリンパ球輸注)療法の実施件数(累計数) 210 件

7 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開	1 月 31 日(水) 17:00～ 廣瀬第 1 ビル 2 階会議室
将来展望検討会議	公開	3 月 3 日(土) 15:00～ 廣瀬第 1 ビル 2 階会議室